
変わりゆくもの

縁異

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

JのPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

変わりゆくもの

【Zコード】

Z0495W

【作者名】

縁異

【あらすじ】

「みんな、さよなら」

万物は変わるもの。紅魔館でもまた、一つの変化があった。
もつとみんなといったかった、でも自分の体力に限界を感じたパチ
ュリーは……

しばしば東方とは関係ない音楽ネタが入ります。」

(ア)

「ティスト名）の名で遊ぶな！」という人はバック推奨。

紅魔館。

ある日幻想郷にある湖の近くに出現した、真っ赤な建造物である。そこには1人の吸血鬼を主として、その吸血鬼の妹や妖怪、悪魔、魔法使い、人間、数多の妖精達が住んでいる。

館、とだけあって外も中もとても広い。館の外、つまり庭園は幻想郷中のの人間や妖怪全てを集めて野外パーティーが出来る程であり、館の中には大図書館が設備されており、それは館のほんの一部でしかない。

そんな紅魔館の一室、主である吸血鬼 レミリア・スカーレットの私室に集まる者達がいた。

紅魔館の主、レミリア・スカーレット。

主の妹、フランドール・スカーレット。

紅魔館のメイド長、十六夜咲夜。

紅魔館の門番、紅美鈴。

大図書館の司書、小悪魔。

大図書館の管理者、パチュリー・ノーレッジ。

この6名である。

5人に重大な話がある、とパチュリーがレミリアに言い、皆を收集するように頼んだのだ。そして一片の欠けもない月が静かに輝くこの夜に、香しい紅茶と甘美な茶菓子が置かれた円卓を囲むようにして6人は集まつた。

「 で、重大な話つて何かしら?」

口火を切つたのはレミリアだ。普段この面子を収集するのは彼女自身の考えがあつてのことだが、今回は珍しくパチュリーに頼まれてのことだった。つまりレミリアは何も知らずに収集したのだ。詳

細を知るのは発起人のパチュリーだけだ。

そのパチュリーは、といふものように本を読んでいた。普段この6名が繰り広げる会合の中、彼女は自分が発言する時以外はずっと本を読んでいる（本を読みながらも話は聞いているのだが）。しかし今日のパチュリーは、本を読む所持つてきてさえいなかつた。

それくらい重要なことなのだろう。それに気が付いた5人は、表情を真剣な物に変えた。

そして、彼女は告白した。

「……私はもう、この辺で退こうかと思つ」

突然のことだった。あまりに突然すぎたので、5人全員が驚きを隠せないでいる。

「退くって、何を……」

フランが問いただす。しかし彼女もパチュリーが何を”退く”のかは、心の内で分かつていた。分かつているのだが、信じたくないなかつた。

「この面子の中で私が退くものといったら、あれしかないでしょう」

しかしパチュリーの答えによつて、信じざるを得なくなつた。

「……いやだ」

ポツリとフランが呟く。そしてフランは席を立ち、泣きそうな

声で叫んだ。

「いやだよー！ パチュリーがいなくなるなんてー！ パチュリー
がいなくなつたら、私たちはどうすればいいのー？ ねえ、パチュ
ー」

言葉が終わらない内に、レミコアはフランの口を塞いだ。そして
レミコアは冷静に言葉を紡ぐ。

「忘れたのかしら？ 今はその名で呼んじゃ黙黙」

レミリアに言われて、少しあ落ち着いたようだ。フランは静かに
席に着く。

次に口を開いたのは、美鈴だった。

「……理由を、訊いてもよろしくでしょうか」

しばしの沈黙。その後パチュリーは血潮するかのような笑みを浮
かべて語り出した。

「もうね、体が持たないの。ほら、私って体力無いし、しかも喘息
持ちでしょ」

パチュリーの言葉に、皆が納得した。“退く”理由を、納得して
しまった。

「本当は、もつと階に付いていきたかった。皆と一緒にいたかった。
でも、もつ私は潮時なのよ」

皆、何も言えなかつた。慰めなど、励ましなど、出来なかつた。

「KP」

重い空氣の中、咲夜がパチュリーの名を口にした。
いや、今のパチュリーは『パチュリー』でも『パチH』でも『パチ様』でもない。この場において彼女は『パチュリー・ノーレッジ』という名を置いてきている。パチュリーだけではない。レミリアも、フランも、咲夜も、美鈴も、小悪魔も、本来の名は置いてきた。

「確かに、KPがいなくなるのは正直寂しいです。ですが、KPが悩んで決めたことなら、私は何も言いません。私共は私共で何とかやっていきます」

「……ありがとうございます」

咲夜 サクに言われて、KPは安心した。皆が自分を引き留めないか不安だったのだ。

「あ……あの……」

続いて口を開いたのは小悪魔だ。彼女は悲しみを出すまいと声を小さくしているが、それでも震えていた。

「一つ、よろしいでしょうか」

「何？」

「KPが私達の下から離れても、KPの代わりが入つても、KPは私達のこと好きでいてくれますか？」

「……当然。だから私がいなくなつても、しっかりやるのよ。コアク、分かった？」

小悪魔 ハークは、ヒの話を聞いて不安になつたのだ。KPがいなくなつて、私達に興味を示さなくなつてしまつたら、というと、いう不安を。

しかしKPはハーク達のこと好きでいると言つてくれた。それなら、KPの言つことを信じるしかないと思つた。

「KP」

美鈴が言葉を発した。

「私達、頑張りますから。あなたの分まで」

だから、と続きを言つ前に、フラン先を越されてしまった。

「ずっと、応援していくね」

KPは、我慢出来なかつた。涙腺が限界を迎えた。

「……………ありがとうございます。今まで……………」

溢れ出る涙を必死に抑えようとするが、それは不可能だった。止めようとしても止められない。

だから、レミリアはKPを抱きしめた。抱きしめて、別れの言葉を告げた。

「…………さよなら、KP」

「の夜、パチュリーは『KAYA-SART』の名を捨てた。

ところで、この辺りになつても誤解していらっしゃる讀者諸君がいる
かもしないので、一應表記しておく。

紛らわしいわ！　とか言われるのを覚悟で表記しておく。

これは、バンドの話である。

別にパチュリーが紅魔館を去るとこつ訳ではない。

事の発端は、八雲紫が外の世界であるバンドのライブを垣こし
たことから始まる。そこで紫は「いつ感じた。
革命だ、と。

これを幻想郷に持ち込めば、『弾幕』以来の変化が訪れるのではないか、と。

そこからの紫の行動は早かつた。彼女は余るだけ持つている外のお金の一部を使い、そのバンドが使っていたのと同じ楽器を仕入れた。そして藍と橙、さらには靈夢まで巻き込んでバンドを結成。

この時こそ幻想郷初のバンド、『8 km Parabelium Bullet』の誕生だつた（因みに、『8 km』は“やくも”と呼ぶ）。

4人は博麗神社で行われた宴会の際に自分達の音楽を披露した。宴会に参加した内の何人が『8 km』に惹かれたかは分からぬが、その場にいた全員が、ギター・やドラムを使った新しい音楽に興味を示したことだけは言える。

次に動いたのは守矢神社の3柱だつた。風祝である東風谷早苗は宴会の翌日に紫に頼んで3人分の楽器を仕入れて貰つた。そして八坂神奈子と洩矢諭訪子の2柱を引き入れる。それを聞きつけた射命丸文と文に無理矢理連れてこられた犬走柵が参加、『サナエクション』を結成した。

すると他の面々も音楽に興味を持ち、自分達も音楽というものをやりたいという意志を持つようになつた。その結果、ポップからメタルまで、様々な音楽グループが誕生することとなつた。

白玉楼に住む2人からなる、爽やかな音楽が特徴の『ゆゆず』。

春妖精が中心となつて誕生したポップパンクバンド『The Liliyspring』。

慧音が人里の可愛い女性を集めまくつて作成したアイドルグループ『KIN48』。

てゐとうじんげが中心となつて兎達を巻き込んで組んだ、ダンスと音楽を混ぜ合わせたグループ『ウサティル』。

輝夜と永琳が組んだ2人組ユニット『BAMBOOM BOOM SATELLITES』。

そんな輝夜に遅れを取つたと感じた妹紅はプリズムリバー3姉妹

を捕まえて『MOCOLO DPLAY』という内省的ロックバンドを結成した。

妖怪の山では、『サナエクショーン』に感化されたにどりは河童の技術力を生かし、『NITRYPTON』という会社を設立。様々なDTMソフトを作成した（早苗の力を借りて作られた『奉歌ロイド』『祝音サナ』もその一つ）。

さらに、地靈殿でも『ONE OKU ROCK』が誕生。果てには、命蓮寺の面々の内の5人が『命蓮座』なる和風メタルバンドを結成する始末。

幽香は『YUKA』名義でソロデビュー。

アリスはチルノとまさかの音樂性の一一致が見られ、勢いで『A1 ice ?』を結成した。

他にも様々な音樂グループがあるが、これ以上はキリが無いので割愛させて頂く。

とにかく、幻想郷の音樂シーンはハ雲紫の思い付きによつて一気に発展したのであった。

そう、レミリア達もその中の1グループである。

メロディックスピードメタルバンド『DraculaForce』

。それが紅魔館で誕生したバンドの名だ。

ボーカル担当、『KPサート』ことパチュリー・ノーレッジ。

ギター担当、『サク・ヤットマン』こと十六夜咲夜。

同じくギター担当、『ホンメイ・リ』こと紅美鈴。

キーボード担当、『レミリヤージム・ブルジャーノフ』ことレミリア・スカーレット。

ベース担当、『フラデルク・ルクレルク』ことフランドル・スカーレット。

ドラム担当、『アク・マツキントッシュ』こと小悪魔。

この6人からなるバンドだった。

しかし先日KPが脱退したので、今は新ボーカルを募集中である。

「レミリア、DraculaForceの新メンバー、決まった？」

大図書館にて読書をしに来たレミリアにそう訊くのは、元”KP
サークル”。彼女は皆との約束通り、バンド脱退後もレミリア達を応
援していた。

「全くよ。試しにメイド妖精に歌わせて見たけど、あなたの代わり
になるくらいの実力は無かつたわ」

レミリアの言葉通り、メイド妖精達には光る物が無かつた。

「湖の妖精達は？」

「同じく。氷の妖精は良かつたけど、彼女は彼女でバンド組んでる
から駄目」

「他は？」

「秋姉妹は……秋しか活動できないから駄目。

鬼達は鬼達でこれからバンド始めるみたい

「……意外と見つからないものなのね」

ボーカル脱退。それはDraculaForceの面々が今まで
ブチ当たつてきた壁の中での、一際高い物だつた。

「……はあ、じゃ、今日も行つてくるわ

「何処に？」

「決まってるじゃない。新メンバー探しよ」

「……抜け出した私が言つのも何だけど、頑張つてね

レミリアは本を閉じると、DraculaForceの面々を連
れて紅魔館を出た。

香霖堂にて。

「あなたの好きな一曲を歌いなさい」

言われるがまま、霖之助は歌つた。といつより、吐いた。

「――――」

「……レニアージム、どうされます?」

「……音楽性が違うわ。私達の音楽にグロウルとか不要よ。といつ
訳で却下」

因みにグロウルとは、族に言ひテスボイスのことである。

地底へと続く穴にて。

「何でもいいから歌いなさい」

パルスイは息を吸うと、思つがままに歌つた。

「妬^H妬^Hたましい、妬^H妬^H～」

「何、この曲……」

「ヘリヤージム……どうします?」

「却^H。聴いてるといつちまで鬱^Hになるわ」

因みにこの曲、パルスイが即興で作った物である。

三途の川にて。

「……歌を歌いなさい」

小町は歌つた。いや、詠つた。

「サボりたい あゝサボりたい サボりたい
和歌じやねーから！」

「レミリヤージム、キャラが崩壊して
るよ。
で、どうするの？」

「却下！！」

レミリアは帰つてきてからも大図書館に来た。

「あー、畜生ー

「新メンバー見つかんねー」

「レミィ、キャラが崩壊して
るわよ」

疲れきつたレミリアには、カリスマの力の字も無かつた。

「あーあ、空からボーカルが降つてこないかしら」

「降つてこないわよ。空からなんて……あ

「パチュリー？」

「もしかしたら、彼女なら……」

「彼女？」

パチュリーの言つ彼女とは、誰なのだろうか。レミリアがそう思つた時だつた。

けたたましい轟音と共に、大図書館の天井の一角が破壊されたのは。そして現れたのは1人の魔法使い。

「パチュリー、久しぶりに本を借りに来たぜ！－！」

霧雨魔理沙。パチュリーが言つた”彼女”その人だつた。

「……咲夜！－！」

「……小悪魔！－！」

レミリアはたちまちメイド服の名前を呼び、パチュリーは司書の名を呼ぶ。すると咲夜は一瞬でレミリアの下へ参上し、小悪魔は出来るだけ早くパチュリーの下へやつってきた。

レミリアは咲夜に命令する。

「美鈴とフラン、いえ、ホンメイとフランデルクをここに呼んで頂戴

！」

「－！」

「……かしこまりました！」

レミリアの意志を汲み取つた咲夜は一瞬でその場を離れ、数秒後に戻ってきた。

「な、なんかヤバい」とになつてきたぜ

事情を知らない魔理沙は、自分がこれから集団でフルボッコにされてピチコる構図を想像した。

「クソツ、逃げるが勝ちだ」

ぜ、の単語が口から出る前に、彼女は無数のナイフに囲まれていた。

「逃げられると思って？」

言つまでもなく咲夜の仕業だ。

そうこうしている内に、美鈴とフランの2人がやつて來た。

「クソツ……集団戦になつたら……私は本を借りることも出来ないのかよ……！」

魔理沙の呟きを無視し、歩み寄る5人。そしてレミリアが命令した。

「魔理沙、歌いなさい」

「……は？」

「歌いなさい」と言ったのよ。あなたが好きな歌を、一曲

訳が分からなかつた魔理沙は、これでピチコらなくて済むならと、妙な解釈をして歌つた。

見事だつた。

流暢な英語詞。何処までも伸びるハイトーンボイス。そして何より、魔理沙の歌つた曲のジャンルはメロディックスピードメタル。そう、音楽性も、声の質も、歌い方も、どの点においてもDrac

Dracula Forceと同じように、人は生きていると必ず壁にブチ当たる。もしかしたら、乗り越えられない壁かもしれない。それでも、足搔いて欲しい。足搔いた先に、光が見つかるかもしれないから。

つて、けーねが言つてた。

(後書き)

歌詞を乗せるとアレだけビ、アーティスト名ならイイかなと思つて書きました。
以下ボツネタ

永遠亭

『B a m b o o o f C h i c k e n』

『F A C E兔』

白玉樓

『M Y O O M M Y O O M S A T E L L I T E S』
『T H E Y O O M』

博麗神社

『H A C T』

『レイムロメン』

『R E M A R I』

妖怪の山

『戦音力ナ』

『祟音スワ』

その他

『UJ婆婆World』

『婆fume』

全部分かつたあなたは凄いです。

正解は感想返信にて（希望者のみ）！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0495w/>

変わりゆくもの

2011年10月6日17時08分発行